2024 春システムアーキテクト試験　全国統一公開模試 講評と採点基準

2024 年 3 月 25 日 (株)アイテック IT 人材教育研究部

■ 全体講評

今回の午後Ｉ記述式試験（以下，午後Ｉという）では，仮採点時点で，本試験における合否の判定基準である，“満点の 6 割”の点数を獲得した受験者が半数程度でした。本試験においても同様の記述式試験突破率と考えています。採点基準を厳しくしたつもりですが，想定以上の 6 割突破率でした。

厳しい採点基準とした根拠は，次のとおりです。本試験の午後Ｉでは，60 点前後に得点が集中し，そのため 1 点足りなくて不合格になるケースがあります。そこで受験者の皆さんがそのような結果にならないように，具体的には，解答の趣旨は合っていても得点できない解答を書かないように厳しく採点しました。例えば，“設問にある条件など，全て満足しているか”，“適切なキーワードが含まれているか”という観点で採点しました。

午後Ⅱ論述式試験（以下，午後Ⅱという）では，趣旨に沿って論述しているか，専門家としての考えをアピールしているか，という観点で採点されることが予想できます。実施内容の記述に終始せずに，“専門家の考え”や，“工夫した点”をアピールするために論文設計するという考え方を徹底して，論述演習するとよいでしょう。

2 時間で書くことが難しいと推測できる字数の論文が散見されました。個人差がありますが，設問イでは，多くても 1,200 字程度に抑えておいた方がよいかもしれません。検討してみてください。

なお，**禁則処理ができていない，敬語を使う，など基本的なことが，できていない論文が散見**されました。

これから説明する解答作成のノウハウを確認して得点アップし，確実な合格を目指しましょう。

なお，受験者からの話を聞くと，本試験では午後Ｉよりも午後Ⅱの方が問題の選択漏れが多くなる傾向があります。本試験では，午後Ⅱの**解答用紙の提出時，問題選択漏れをしていないか，必ず確認する**ようにしましょう。**問題の選択漏れは決して他人事ではありません**。

■午後Ｉ講評

午後Ｉにおいて突破レベルをクリアするために留意すべき点を，問題別に挙げておきます。具体的には，各問題の講評を参照してください。

【問１　自動倉庫システムの構築】

(1) 設問で問われている内容と解答の語尾を整合させる。

(2) 設問の解答条件を全て満足させる解答を作成する。

【問 2 機器貸出システムの改善】

(1) 理由を問われている場合は，十分に考察して適切な理由を解答する。

(2) “累積”という言葉を使うときは，言葉を修飾する必要があるかを確認する。

【問 3 持ち帰り弁当チェーン店システムにおける災害対策】

(1) 解答は具体的に表現する。

(2) 問題文中の表記を正確に解答に反映する。

(3) 複数の送信元と送信先がある場合，送信するデータだけではなく，送信元と送信先を含めて具体的な解答を作成する。

(4) 業務特性にかかわる問題文の記述には留意する。

午後Ｉを解く上での一般的な留意点を，次に挙げておきます。

(1) 記述式問題では実質ページ数に留意する

問題の量で問題を選択する場合，ページ数や設問数だけで，問題を選択するのではなく，**表などに小さい字で書かれていないか**についてもチェックしましょう。

(2) 設問にある解答条件を全て満たす解答を作成する

特に“～の観点から”という記述に着目してください。これは，考えられる複数の解答から，解答を絞り込むための条件です。必ず，この条件を満足するようにしましょう。

(3) 解答済みの設問を見直し，難易度の低い設問を確実に得点する

難易度の高い設問を解けることも重要ですが，難易度の低い設問を確実に得点して，確実に得点を積み重ねることが合格には不可欠です。したがって，時間が余ったら，既に解けていると思った設問の解答についても，全ての解答条件を満たしているか，という観点で確認するようにしましょう。

■午後Ⅱ講評

論述式問題では，読みにくい，基本的な部分ができていない，あるいは，論文としての体裁が整っていない解答がありました。次に留意点を，優先順に挙げておきます。

(1) 問題文の趣旨に沿って論述する

設問文だけを見て論述しないようにしてください。趣旨にある“～必要である”，“～重要となる”などの語尾の文章は特に留意しましょう。

(2) 詳細を説明する場合は先に概要を述べる

急に詳細な内容を説明されても，採点者はイメージできず，結果的に読みにくい論文と評価される可能性が高まります。詳細を論じるときは，概要を説明してから“具体的には～”などと展開するとよいでしょう。

(3)採点者が採点しやすい論文を作成する

設問で問われている内容，すなわち，採点者が知りたい内容がどこに書いてあるか分からない論文では，高得点は望めません。できるだけ，設問文にある言葉だけを使って，設問文に沿った章立てをすることを薦めます。もちろん例外もありです。

(4)質問事項の記入漏れをなくす

解答用紙の先頭にある質問も採点対象です。論述後に書こうと思っている人に記入漏れが多いようです。遅くとも**論文設計が終わったら，質問書へ記入する**ようにするとよいでしょう。

試験開始前に見ても問題がないことを確認した上で，**試験開始前に解答用紙を開いて質問事項を確認しておく**とよいでしょう。そのとき，設問イや設問ウの論述開始箇所も確認しておきましょう。

(5)計画やシステムの名称は例に倣って書く

質問事項において**最初に問われている 30 字が計画やシステムの名称になっていない**ものが多いです。例を基に自分でチェックしましょう。計画やシステムの名称を例に倣って修飾すること，例と同じ語尾になること，も大切です。本番の試験でも，質問事項は採点対象なので，漏れなく回答するようにしましょう。

(6)論文は 1 枚ずつ書く

書いた文字が重なり合った状態で，その上から字を書くと，双方のページに字が写るので，論文は 1 枚ずつ書くとよいです。

(7)事例の詳細を書く

一般論を書いていては，合格は難しいです。問題にもよりますが，“一般的には～”などと書かないようにしましょう。

(8)論文の体裁を整える

採点には大学の教員も担当することもあります。細かい点ですが，できれば，次の点に留意してください。

(a)**禁則処理をする**
(b)箇条書きで，節を書き始めない，書き終えない
(c)**“いただく”，“頂く”，“お客様(固有名詞を除く)”などの敬語は使わない**
(d)“思う”は使わない
(e)括弧は，“(以下，～という)”以外では使わない
(f)問題にある漢字をひらがなや誤った字で書かない
(g)略字を書かない
(h)“である”調に統一する
(i)誤字に留意する。例えば，“購買”を“購売”，“実績”を“実積”，“認証”を“認承”などと書かない
(j)箇条書きのタイトル以外で，体言止めを使わない
(k)500 字を超える**長い段落は読みにくい**ので，適切な長さで段落を構成する
(l)段落の書き始めは字下げをする

以上，細かいですが，合格のためです。できるようにしておきましょう。

次に午後Ⅰ，午後Ⅱの詳細な講評を説明します。

＜午後Ⅰ＞

【講評】

【問1　自動倉庫システムの構築】

【講評】

設問で問われている内容と解答の語尾を整合させるように解答を作成しましょう。具体的には設問 1(2)が該当します。設問ではケースについて問われているので，“～ケース”と解答するとよいでしょう。

設問の解答条件を全て満足させる解答を作成するようにしましょう。具体的には設問 1(2)が該当します。設問にある“その属性がもつ値を含めて”という解答条件を満足しない解答が散見されました。

［設問 1］

(1)低い正答率でした。本試験で類似の設問が過去に出題されていました。

(2)設問条件を満たさない解答が散見されました。厳しいですが，不正解としました。

(3)高い正答率でした。

(4)高い正答率でした。

［設問 2］“棚出指示ファイル”や“棚出実績ファイル”というファイル名を含む解答が散見されました。設問では情報名について問われているので，厳しいですが，問題文にある“棚出指示情報”や“棚出実績情報”というキーワードを含む解答だけを正解としました。

［設問 3］

(1)“棚出指示情報”という解答が散見されました。 設問文に“棚出処理をする前に”とある点，及び，表 2 の注記にある“棚出指示情報には棚出しする商品コードを含むがフローラックの識別番号は含まない”など解答例を導くための記述が問題文にある点を根拠に，厳しいですが不正解としました。

(2) “フローラックの識別番号”という解答が散見されました。〔自動倉庫システムの概要〕に“フローラックにはフローラックの識別番号を貼付し，ロボットは棚出指示情報を基にフローラックの識別番号を読み取って棚出しする商品を確認して，棚出しを行う”と記述されていることを根拠に，“フローラックの識別番号”も別解としました。

(3)解答解説に“システム開発規模の観点から”と 2 か所に記述されていますが，全て“業務の観点から”に訂正させてください。

棚入れ棚出しを同時にできることを根拠に高い作業効率性をアピールした解答が散見されました。解答解説にあるように，問題文に“先入れ先出し方式”というキーワードがあることを根拠に，厳しいですが不正解としました。高い正答率でした。

【採点基準】

［設問 1］

(1)“出荷予定日”及び“入荷予定在庫”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点，その他は基本的に 0 点。

(2)“引当済入荷予定在庫”及び“ゼロ”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点，その他は基本的に 0 点。

(3)解答例と同じものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

(4)“出荷”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

［設問 2］

“棚出指示情報”及び“棚出実績情報”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

［設問 3］

(1)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

(2)“フローラックの識別番号”を別解とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

(3)“先入れ先出し”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

【問2 機器貸出システムの改善】

【講評】

理由を問われている場合は，十分に考察して適切な理由を解答するようにしましょう。具体的には〔設問 3〕が該当します。“機器の使用料が割引額を超過してしまうから”では，設問で問われている“機器が使用されない期間が減る理由”を適切に表現していません。“機器を早く返却する”旨を解答に盛り込んで適切な理由を解答する必要があります。

“累積”という言葉を使うときは，言葉を修飾する必要があるかを確認するようにしましょう。具体的には，〔設問 5〕の空欄 b が該当します。正解は“機器ごとの累積稼働時間”ですが，“累積稼働時間”という解答が多く，“機器ごとの累積稼働時間”という解答は少ない状況でした。したがって，“累積稼働時間”も正解としています。“累積稼働時間”は，“顧客ごと”，“機種ごと”など，いろいろな集計の仕方があるので，修飾する必要があるのか，ある場合はどのように集計するのかを確認するようにしてください。

〔設問 1〕高い正答率でした。

〔設問 2〕

(1)厳しいですが“早期に引当できる”旨を必須としました。

(2)“入庫予定日”を必須としました。高い正答率でした。

〔設問 3〕“早く返却する”旨を含めない，割引額と使用料の比較を根拠にした解答については，厳しいですが，不正解としました。

〔設問 4〕“投下資本回転率の低下”という旨を必須としました。高い正答率でした。

〔設問 5〕

(1)高い正答率でした。

(2)高い正答率でした。

【採点基準】

［設問 1］解答例と同じものに対し 5 点，その他は基本的に 0 点。

〔設問 2〕

(1)“早期に引当できる”旨を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 10 点，その他は基本的に 0 点。

(2)“入庫予定日”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 10 点，その他は基本的に 0 点。

〔設問 3〕“機器を早く返却する”旨を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 4 点，その他は基本的に 0 点。

〔設問 4〕“投下資本回転率の低下”という旨を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

〔設問 5〕

(1)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点，その他は基本的に 0 点。

(2)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し各 5 点，その他は基本的に 0 点。

【問 3 持ち帰り弁当チェーン店システムにおける災害対策】

【講評】

解答は具体的に表現するようにしましょう。具体的には〔設問 1〕(1)の“復旧時間の観点”では，メリット

を問われています。厳しいですが，“復旧時間の短縮ができる”だけでは不正解としました。

問題文中の表記を正確に解答に反映するようにしましょう。具体的には，〔設問 1〕(1)や(2)において，“関西バックアップセンター”を“関西センター”と表記した解答が散見されました。

設問における制限字数に余裕があり，問題文において**複数の送信元と送信先がある場合，送信するデータだけではなく，送信元と送信先を含めて具体的な解答を作成する**ようにしましょう。具体的には〔設問 1〕(2)と(3)では，送信元として，関東センターと関西バックアップセンターが考えられます。このようなケースでは，送信するデータ名だけではなく，送信元と送信先を含めて解答を導くようにします。

業務特性にかかわる問題文の記述には留意するようにしましょう。具体的には，〔設問 2〕(2)の“業務特性の観点から”にかかわる問題文の“特定時期において単位時間当たりのトランザクション数が平常時の 5 倍ほどに増大する”が該当します。

〔設問 1〕
(1) 高い正答率でした。
(2)と(3)では，厳しいですが，適切な送信元，送信先，送信データを含めた解答を正解としました。
〔設問 2〕
(1)“ランニングコスト”を必須としました。高い正答率でした。
(2)“業務特性の観点から”という解答条件を加味して解答を導く必要があります。このような問題は高頻出なので，業務特性にかかわる問題文の記述は要チェックです。
(3)高い正答率でした。
〔設問 3〕
(1) 1 日前ではなく“10 月 20 日午前 0 時 0 分”という解答が散見されました。10 月 20 日午前 0 時 20 分に災害が発生した場合，この時点のバックアップはクラウドサービス側に送信完了していないことを問題文から確認してください。
(2)“115 分”という解答が散見されました。問題文の“フルバックアップと更新ログの両方の送信と保管を並行した場合でも所要時間は変わらない”という記述から，解答解説にある午前 0 時 20 分で災害が発生したケースでは，午前 0 時 0 分にフルバックアップと更新ログが並行して送信され，そのうち更新ログは 5 分で送信が完了していると考えてください。

【採点基準】
〔設問 1〕
(1)復旧時間の観点：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点，その他は基本的に 0 点。
店舗側の作業の観点：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点，その他は基本的に 0 点。
(2) “関西バックアップセンター”，“仕入先”なおかつ“配信用データ”を必須として解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点，その他は基本的に 0 点。
(3) “関西バックアップセンター”，“関東センター”なおかつ“発注済データ”を必須として解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点，その他は基本的に 0 点。
〔設問 2〕
(1) “ランニングコスト”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。
(2)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。
(3)“目標復旧時点”又は“70 分”を必須とし，解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。
〔設問 3〕
(1)解答例と同じものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。
(2)解答例と同じものに対し 6 点，その他は基本的に 0 点。

＜合格に向けて＞

自分の改善すべき点を確認して，合格を決めましょう。次のような改善策があります。参考にしてください。

〔午前Ⅰ・Ⅱ多肢選択式問題〕

学習方法の基本は，過去問題を解き，解答解説を含めてしっかりと勉強することです。ただし，一般的に同じ試験区分，この場合はシステムアーキテクト試験，からの過去問題の出題率は低下する傾向があります。他の試験区分の過去問題も学習対象としておくとよいかもしれません。なお，問題演習において分からない点はテキスト学習でカバーするとよいでしょう。

特にシステムアーキテクト試験に顕著なのですが，素晴らしい論文を書いている受験者に，前回不合格になった原因を聞くと，午前Ⅱにおいて足切りになった方が多いことが分かります。午前Ⅰ免除の方も，午前Ⅱ対策については，試験直前まで，継続するようにしましょう。

〔午後Ⅰ〕

過去問題の演習を中心に学習を行い，解答については，

本試験と同様に鉛筆で書くようにしましょう。自身の解答と正解例のギャップをチェックして，それらに違いが生じた原因を簡単に分析するとよいでしょう。

記述式問題では，設問の条件を全て満足する解答を作成することが重要です。**解答欄に記入する前にもう一度，設問の解答条件をチェック**してみましょう。

もし，本試験において時間が余ったら，解けていない設問の解答を考えることも重要です。加えて，解けたと思っている設問の解答も見直すようにしましょう。

〔午後Ⅱ論述式問題〕

IPA が発表している講評を確認しましょう。最新の令和 5 年度午後Ⅱでは，“問題文に記載してあるプロセスや観点などを抜き出し，一般論と組み合わせただけの表面的な論述が散見された”とあります。このような評価の論文を書かないように，“具体的には～”などと展開して事例の詳細をしっかりと論文に盛り込むようにします。

公開模擬試験では，“また，～した”などと書いて専門家としての“考え”をアピールしていない論文や，語尾を“～した”から“～という工夫した”などと，語尾だけを変えた論文が散見されました。工夫をアピールするためには，工夫する必要性を採点者に説明する必要があります。例えば困難な状況を説明してから施策を論じる展開などが効果的です。

経験則ですが，自宅において 3 時間ほどで書ければ，本試験において 2 時間以内で書ける可能性は高くなるようです。論文練習を含めて本試験では，書き終わったら必ず解答を見直すようにしてください。本試験では，論述が終了した受験者が残り時間を無駄に使っている状況が散見されます。**“自分が書いた解答を見直す”**ことは，経験的に他の受験者との競争優位な点になりますから，時間が許す限り，実行しましょう。

－以上－